

フローリング

センプリー（直貼り遮音タイプ）

施工説明書 06-SNP02T-00

このたびは当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

●安全上のご注意

この表示の欄は「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害、損害の程度」です。



接着剤を使用する際は、換気を十分に行ってください。



禁止



実行



注意

お守りいただく内容を記号で区分し、説明しています。



接着剤を使用する前に必ず接着剤容器に記載されている、安全上の注意、使用方法、使用上の注意を読み正しくご使用ください。
守らない場合、健康を害するおそれがあります。

●施工上のご注意



この商品は、一般内装（住宅）用の床材です。屋外及び重歩行（土足）用、業務用として使用される居室にはご使用になれません。また屋内でも浴室など、湯気にさらされたり、たえず水がかかるところではご使用になれません。



ゴムハンマーを使用する場合は、必ずフロアを損傷させにくい生ゴムハンマー（色：橙色、材質：生ゴム、重量：約450g、ゴム硬度：約60度）を使用し、軽く叩いて位置合わせを行ってください。強く叩くとサネ部分やフロア表面が割れることがありますので強く叩かないでください。
また、劣化して固くなった生ゴムハンマーは使用しないでください。



連続した長い10mを超えるような場合は、被せ型床見切りを使用するなどして、床面を区切り、フロアの長さ継ぎが連続しないようにしてください。



施工前に必ず仮並べを行い、色の濃淡、空柄など、部分的に片寄らないように、全体の色柄のバランスをご確認ください。



床暖房に施工する際は、床暖房放熱体メーカーの施工説明書をよく読み、注意事項を守って、正しく施工してください。なお、適合機種については当社のカタログをご参照ください。



フロア間には、必ずすき間を設けて施工してください。木質フロアは、湿度の変化により伸縮する性質があり、その伸縮量は施工条件や使用環境の影響を受けますので、必ず記載の要領をお守りください。
また、フロア長辺側の巾木や被せ型見切り（設置した場合は）の下などには、必ずすき間を設けて、伸びを吸収できるようにしてください。



直射日光に当たったり、雨に濡れる場所、湿気の多いところでは保管しないでください。
長時間、水に濡れたまま放置しますと、カビの発生や腐れ、変色、ひび割れ、はがれ、膨れなどの原因となります。また、立てかけ状態での保管を避け、開梱後は速やかに施工してください。



施工工具は、各工具の取扱説明書に従って、適切に保護具（保護メガネ、防じんマスクなど）を使用してください。フロアカット時は木粉により、むせる場合があります。



コンクリートスラブ厚は150mm以上が基本となりますので図面などでご確認ください。



キャスター付の椅子や車いすをご使用されると、傷やへこみの原因となりますのでご注意ください。



この商品は接着工法のため、必ず指定の接着剤をご使用ください。
指定以外の接着剤を使用すると、フロア施工後、床鳴り（踏み鳴りなど）や接着不良などのトラブルの原因となります。



ピアノなど重い家具、電化製品等の下にはインシュレーターをご使用ください。



防滑塗装品のためワックスは塗布できません。

●使用上のご注意

滑りについて

※犬の歩行に配慮した滑り性能であり、**全く滑らないわけではありません。**また、ダッシュ時の「スタート」、「ストップ」、または「スピン・ターン」時は滑ることがあります。

※**犬の足の状態によって滑りやすさは変化します。**足裏の汚れ（土や砂）、肉球がカサカサしてる、爪や毛が長いなどの理由で滑りやすくなるため定期的なお手入れをおすすめします。

※**室内環境で滑り性能は変化します。**特に乾燥すると滑りやすくなるため冬場は加湿器などの使用を推奨します。

※フローリング表面に皮脂などの**油分が付着すると滑りやすくなる**可能性があります。住宅用洗剤を含ませ固く絞った雑巾で拭き取ってください。

※化学モップ、化学雑巾、またはフローリングワイパー（ドライタイプ）のご使用されますと、これらに含まれる**油分や流動パラフィンなどの成分によって、滑りやすくなる**場合がありますので、十分ご注意ください。

その他

※排泄物や嘔吐物が長期間床上に滞在すると、染み込んで汚染や変色の原因となる可能性があるため、すぐに拭き取ってください。水分の染み込む恐れのある箇所にはコーキング施工をすることをお勧めします。

※ワックスはかけられません。ワックスを塗布されますと表面がワックスの被膜となり、塗膜本来の性能が発揮できなくなりますので、ご了承ください。

1 施工前の準備

■梱包内容をご確認ください。

用途	商品名	寸法	入数	同梱物	備考
床暖房兼用	センブリー (直貼り遮音タイプ)	13.5×145×909mm	24枚	そえ木	そえ木はカットして お使いください。

■接着剤について

必ず下記の指定接着剤をご使用ください。

メーカー名	商品番号		内容量	使用量の目安	可使用時間	作業温度範囲
コニシ(株)	夏用	KU928RS 4Lパック	5.5kg	500～ 600g/㎡	40分	夏用：15～35℃
	冬用	KU928RW 4Lパック				冬用：5～25℃

※ご使用にあたっては、接着剤に記載の使用上の注意を良く読んで正しくご使用ください。

2 施工下地の確認

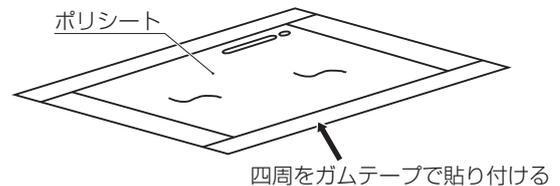
■スラブ厚さと種類について

コンクリートスラブ厚さは150mm以上が基本となりますので、図面等でご確認ください。

■コンクリートスラブの乾燥状態の確認

打設後、3週間以上経過しており、最も乾燥しにくい部分に、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ（ガムテープ）止めで被覆密閉し、24時間以上放置後、シート下の材面が黒く変色していないこと。

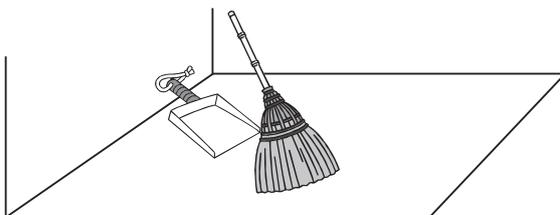
(日本複合・防音床材工業会「防音直張り床材の施工に関する遵守事項」より)



表面が乾燥していても、内部が乾燥していない状態で施工すると、施工後の床鳴り、突き上げ、波打ち、接着不良の原因となります。

■スラブの表面状態について

下地の表面に粉ふきが多いものや、表面強度が弱い場合は、接着不良やはがれが発生する場合がありますので、事前に確認してください。

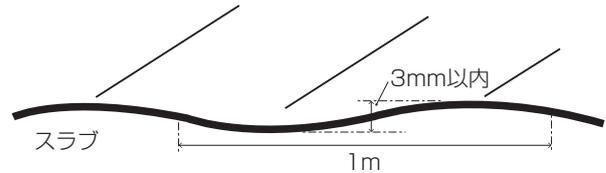


❗ 砂やホコリなどはキレイに掃除!!

❗ 表面の粉ふきや、表面強度が弱くないかを確認!!

■スラブの不陸精度

- ①不陸は1mにつき3mm以下としてください。
床暖房パネル等の段差は1mm以下にしてください。
- ②下地のレベルが確保できていないと、施工時の接着不良、不陸や段差の表面への映り、歩行時の違和感を生じることがあります。
- ③廊下とリビングの境界部の段差には特に注意してください。



■床暖房を設置する場合

- ①床暖房放熱体メーカーの施工説明書をよく読み、注意事項を守って、正しく施工されているか確認してください。
- ②床暖房放熱体の、「通湯（漏洩）・通電テスト」・「試運転」など、機器の工事および検査が完了してから施工してください。
- ③床暖房パネルの固定釘部分などの凹部（深さ2mm以上）は、施工用接着剤で埋めて凹部をなくすようにしてください。
- ④ガス温水式床暖房をお使いの場合は、各ガス会社様またはシステムメーカー様へ対応可能なリモコンについてお問い合わせください。

3 施工の手順

1. 美しく、バランスよく並べる。

よくお読みになり、美しく仕上げてください!!

■仮並べについて

- ❗ 施工する前に必ず仮並べを行い、色の濃淡・杢柄などが部分的に片寄らないように、全体の色柄のバランスを確認してください。1枚1枚色柄が異なります。

■割り付け

- ❗ ①短辺の接続箇所が隣り合わないようにする。
短辺の接続箇所が隣り合わせになっていると、施工後にフロアの目すき、段違い、床鳴り（踏み鳴り）などの不具合が発生することがあります。
- ②227mmずらして施工することをお奨めします。

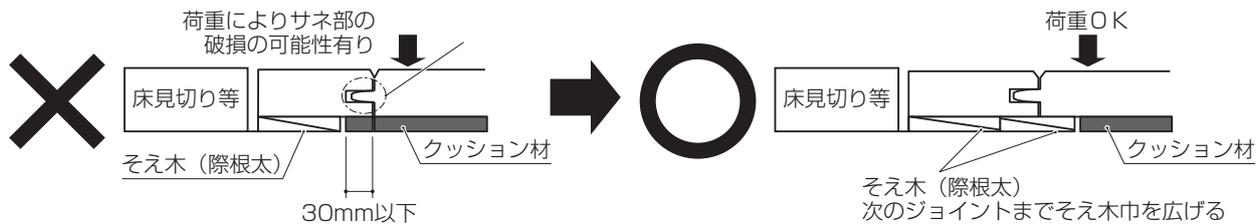
2. 壁際の巾木下部へそえ木を使用するかの決定

壁際の巾木下の部分については、ゼネコン様、施工店様で協議の上、使用をお決めください。

- ①そえ木を使用した場合→ 家具が傾くことがあります。地震など万一の場合に備えて家具の転倒防止器具などをご使用ください。
- ②そえ木を使用しない場合→ 壁際を歩いたり家具を置いた時に巾木の下にすき間が生じます。

- ❗ そえ木とサネ嵌合部の位置関係によっては、サネが折れる可能性がありますので、必要に応じて右記の要領に従って、そえ木を施工してください。

※フロア端部の出が、そえ木から30mm以下の場合は、そえ木を次のジョイントまで広げ、サネの破損が生じないように調整してください。



3. 部屋の周囲にスキ間を設ける

長さ方向のスキ間の設け方

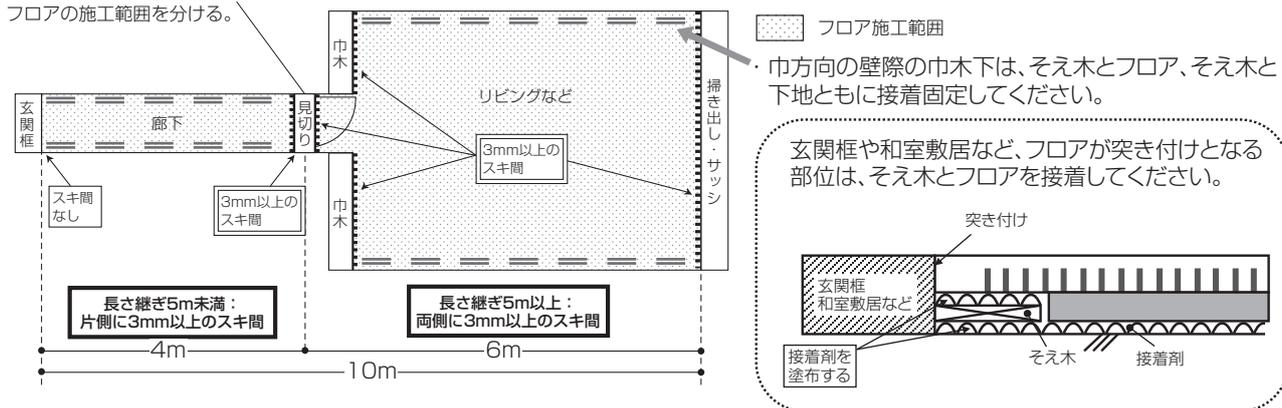
- 長さ継ぎが5m未満の場合…納まりの片側に3mm以上のスキ間を設けてください。
- 長さ継ぎが5m以上の場合…納まりの両側に3mm以上のスキ間を設けてください。
- 上記いずれも困難な場合…長さ方向のフロアジョイントに0.3mmのスキ間を設けてください。

周囲にスキ間を設ける施工の例（廊下とリビング）

廊下とリビングは、以下の例のようにドアの下に被せ型床見切りを使ってフロア施工範囲を分け、フロアの施工長さを短くしてください。

【事例】

ドアの下に被せ型床見切りを設置し、フロアの施工範囲を分ける。

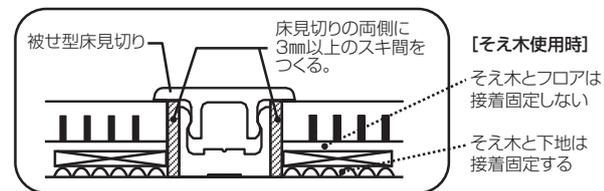


・部屋の周囲には、以下のように可能な限りスキ間を設けて施工してください。

(1) 見切り材を使用する場合

見切り材の両側に3mm以上のスキ間をつくります。

*見切り材を使用する場合：見切り材の両側に3mm以上のスキ間をつくります。

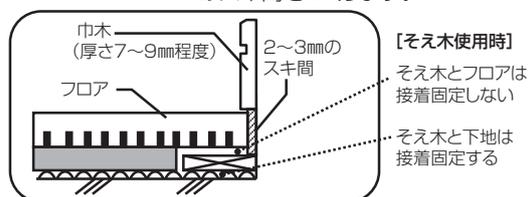


(2) 巾木を使用する場合(巾木は後付けにしてください)

長さ方向の巾木下に2~3mmのスキ間をつくります。

*ソフト巾木はスキ間をカバーできないので、ご使用にならないでください。

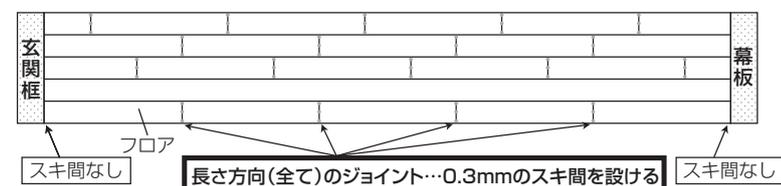
*巾木を使用する場合：長さ方向の巾木下に2~3mmのスキ間をつくります。



・巾木は後付けにしてください。

・フロアの伸縮を吸収するために、部屋の周囲はくさび(2~3mm程度の合板(そえ木など))で、2~3mmスキ間を空けて施工してください。くさびは施工翌日から3日後までに抜き取ってください。

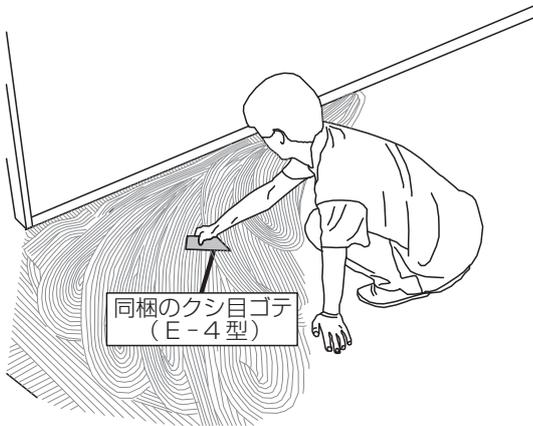
周囲にスキ間を設けられない施工の例



*フロアの長さ方向のジョイントにスペーサーなどで、約0.3mmのスキ間を設けて施工します。

4. 接着剤を塗布する

- 使用する場所の温度が5℃以下では、硬化が進みませんので、冬季に施工される場合にはあらかじめ、施工下地を暖める等の処置をおすすめします。
- 接着剤が硬化するまでは、注意してフロア上を歩いてください。未硬化の場合はフロアがずれたりし、スキ・剥がれの原因になります。



- 床暖房パネルの固定釘部分などの凹部（深さ 2mm 以上）は、施工用接着剤で埋めて凹部をなくすようにしてください。
- 接着剤は専用の「クシ目ゴテ」で塗り広げてください。木切れなどを用いますと、規定量塗布できないことがありますので、必ず専用のクシ目ゴテをご使用ください。
- ※所定通り接着剤を塗布しないと、スキや踏み鳴りの原因となります。
- 接着剤に記載の使用方法を良く読んで正しくご使用ください。（衣類などに接着剤が付くと、とれなくなりますので、十分ご注意ください。）
- 床材の表面に接着剤が付いた時は、すぐに乾いた布で拭き取るか、アルコールを含ませた布ですぐに拭き取ってください。
- ※接着剤は湿気で固まりますので、水拭きはしないでください。

■床暖房までに必要な期間

- 接着剤が硬化するのに必要な期間を、十分に取ってから床暖房の運転を開始してください。
(5℃以下で6日以上、5～15℃で4日以上、15℃以上で2日以上)

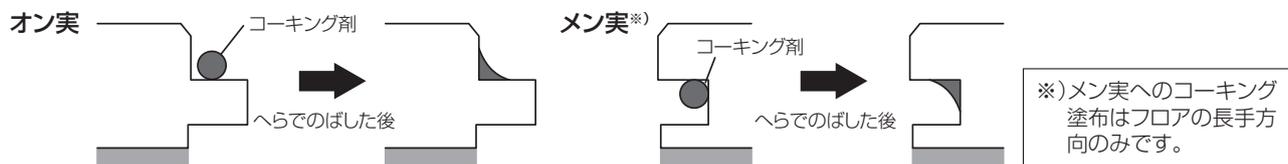
■目地コーキング処理をされる場合

フロアの継ぎ目やフロアと壁の間など、水分の染み込む恐れのある箇所には下記の方法で、目地コーキングをすることをお勧めします。

※コーキングを実施しても完全に膨れや変色を防止できるわけではありません。水分はできる限り早めに拭き取ってください。

- フロアを嵌合する直前に、フロア長手のオン実上部とメン実上顎に、フロア短手のオン実上部に変成シリコンコーキング剤[※]を1～2mmのビード状に塗布し、丸形のへらで隙間ができないように塗りのばしてください。

※)変成シリコンタイプをご使用下さい。シリコンタイプを使用するとフロア表面に付着した際に滑りやすくなります。
[推奨コーキング剤(市販品)・コニシボンド 変成シリコンコーク(クリアー色)]

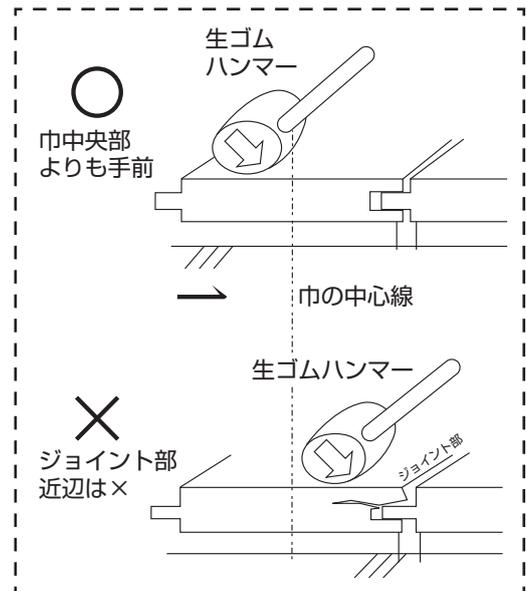


※)メン実へのコーキング塗布はフロアの長手方向のみです。

- ❗ コーキング剤がフロア表面に付着しないように、周囲をマスキングしてからコーキングしてください。（面取り部分までマスキングしてください）
- フロア嵌合後、はみ出したコーキング剤はアルコール等で拭き取ってください。
- コーキング剤の拭き残しがあると艶ムラの原因になります。
- コーキング塗布後は5日間以上養生してください。

5. フロアの施工

- ①隣り合うフロアを足で踏んだり、ゴムハンマーでたたき込むなどして強く寄せすぎないようにしてください。(フロアのジョイント部は軽くふれる程度に寄せてください)
- ②フロアをずらしながら寄せると、接着剤をかき取ってしまい、ハガレの原因となります。また、ジョイント部に接着剤が溜まった状態で固まると、その部分の歩行感が悪化したり、防音性能を低下させることがあります。
- ③ゴムハンマーを使用する場合は、必ずフロアを損傷させにくい生ゴムハンマー(色: 橙色、材質: 生ゴム、重量: 約450g、ゴム硬度: 約60度)を使用し、軽く叩いて位置合わせを行ってください。強く叩くとサネ部分やフロア表面が割れることがありますので強く叩かないでください。
また、劣化して固くなった生ゴムハンマーは使用しないでください。
- ④仮釘などを使用する場合は、下地の温水パイプや配線などに注意してください。
また、接着剤硬化後に仮釘を必ず抜き取ってください。
- ⑤施工した直後、フロアの上に乗るとフロアが動き、スキ間のバランスが変わりますので、ご注意ください。
接着剤が硬化するまでに、外から力を加えると、接着力が低下します。



6. 施工後も美しく

■施工後のご注意

- ①施工用接着剤が固まってから、フロアを寄せることは止めてください。
- ②くさびは施工翌日から3日後までに抜き取ってください。
- ③施工後は室内に湿気がこもらないように適度に換気を行ってください。
直貼りフロアは吸放湿により伸縮するため、施工条件や使用環境によっては、表面に波打ちが発生する可能性が高くなります。

■養生

- ①施工後は直射日光を避け、傷や汚れを防ぐために、養生シートを被せ、養生テープで固定してください。
その上に合板、養生ボードを敷いて十分に養生してください。なお、養生シートとフロアの間、ゴミなどが無いようにフロア表面を、必ず掃除してください。
- ②養生シートは必ず、壁際、サッシ際まで被せてください。養生シートが被っていない場所は、直射日光にあたり、色が変わる場合があります。
- ③養生シートは平面(フラット)タイプをご使用ください。凹凸(エンボス)タイプの養生シートを使用すると、艶ムラや養生シートの跡が残ったりしますので使用しないでください。
- ④養生に梱包用テープなどを使用した場合は、粘着力が強く、フロアの化粧面を破損させたり、粘着剤が残ったりする可能性があります。

4 お引き渡しまでの間のご注意

■換気についてのご注意

- ①当商品はF☆☆☆☆タイプとなっておりますが、お引渡しまでの間できるだけ、居室等の換気につとめてくださいますようお願いいたします。
- ②換気することにより、湿気が室内にこもらず、突き上げ等の対策となります。

■水濡れ等に対するご注意

- 【お願い】 工事完了後は、雨水に濡らさないよう窓の閉め忘れなどにご注意ください。
万一、水濡れした場合はすぐに拭き取り、十分に乾かしてください。
濡れたまま放置しておくと、膨れや変色などになることがあります。

【工事業者様へ】 施工終了後、この施工説明書はクリーニング業者様へお伝えください。

■ワックスについて

センプリー（直貼り遮音タイプ）には、ワックスがけは必要はありません。

- ワックスを塗布されますと、フロアの表面がワックスの被膜となるため、防滑性、傷のつきにくさ、抗菌・抗ウイルス性等の塗膜性能が発揮されなくなります。

■クリーニングについて

- 化学モップ、化学雑巾、またはフローリングワイパー（ドライタイプ）のご使用されますと、これらに含まれる油分や流動パラフィンなどの成分によって、滑りやすくなる場合がありますので、十分ご注意ください。

miratap

株式会社 ミラタップ miratap inc.

●お客様相談センター

受付時間はホームページにて最新情報をご確認ください。
<https://www.miratap.co.jp/shop/>
TEL: 0120-468-838 FAX: 0120-382-096

